

はじめに

画期的な予防医療技術の登場！

2000年に国立感染症研究所の花田信弘部長
(現鶴見大学教授)等によって開発された3DS (Dental

Drug Delivery System:スリーディーエス)は画期的なミュー
タンスレンサ球菌(以下MS菌)の除菌技術でした。

その後、歯周病の治療にも応用されるようになり、予防歯科のあり方を
大きく変えることになりました。

さらに近年、歯原性菌血症の危険性が認識されるにつれて、口腔細菌全体のコン
トロール技術でもある3DSは全身の健康にも大きく貢献することがわかってきました。
また、3DSやPMTCのために定期的に来院するという歯科医院の特性を生かすことによ
って、栄養、運動、睡眠といった保健指導にも大きな効果が期待できるようになりました。

もともと、歯科医師による保健指導は歯科医師法第1条、第22条に謳われており、法的
根拠に基づく行為であり、歯科医師の義務でもあります。そこで、私たちは3DSに加えて「歯
科に特化した保健指導」を行う一連の予防医療体系を「3DSセラピー」として実施してきました。

3DSセラピーによって、歯科医院は、栄養器(歯)の治療、菌血症の予防、保健指導という
3つの強力なカードをもつ医療機関に成長することになります。このように、歯科の価値が高
まる半面、歯科医師は従来の歯科の医療体系から転換を図らなければならなくなりました。こ
のことは従来の歯学教育を受け、従来の歯科医療を行ってきた歯科医師にとっては容易なこと
ではありません。

そこで、3DSセラピーを実施するための「歯の健康ステーション」をモデル化して、多
くの院長がスムーズにこの医療技術を導入できるようにしました。全国の歯科医院に
3DSセラピーが普及すれば我が国の歯科医療に産業革命が起き、歯科医療の体系変革
が、国民の健康づくりに大きく貢献するものと思われれます。

本書は、3DSセラピーとそれを実施する歯の健康ステーションについて、わ
かりやすくまとめてあります。本書を読まれた方々が、この画期的な医療技
術を通じて地域の方々に貢献されることを願っております。

2014年2月1日

浦口昌秀